

平成 27 年度第 13 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「実と種～宍塚の里山と上高津ふるさと歴史の広場散策」を実施しました。

開催日時：平成 27 年 12 月 6 日（日）

開催場所：（午前） 土浦市宍塚、「宍塚の里山」

（午後） 土浦市上高津 上高津ふるさと歴史の広場

参加者：23 名

今回は以前から霞ヶ浦自然観察会で実施したいと思っていた、植物の種子散布（実と種の不思議）の観察会を、認定 NPO 法人宍塚の歴史の会のみなさんが、多田多恵子先生をお招きして実施することを知り、ぜひ合流させて頂けないでしょうかとお願いして実施することができました。まずは宍塚の自然と歴史の会の皆様にお礼申し上げます。

当日は暖かい晴れの日で絶好の観察会日和でした。集合場所で多田先生の御説明を伺ったあと、早速宍塚の里山に向かい、班行動で木や草の実や種を集めました。たくさん見つけようと思って探して見るとなかなか思うように見つかりません。視線の低い子どもたちのほうが、たくさんの実や種を集めているようでした。それでもたくさん参加者で集めるとたくさんの実や種が集まりました。時間が過ぎるのも忘れて実や種を探した後は、集めた実や種を班ごとにテーブルに並べ、実と種を機能別に分類していきました。

実や種には鳥に運ばれるもの、風によって運ばれるもの、動物の毛にひっついて運ばれるもの等々、実にさまざまな戦略を用いて種子を散布させていることがわかりました。また、鳥に運ばれる実には少しだけ毒を持つものが多く、無毒のものも熟す時期をずらすなど、ちょっとずつ食べられる工夫をしていることも多田先生に教えて頂きました。自ら動けない植物にとって、種子散布こそが、子孫を残す大冒険だと実感しました。

午前中、宍塚の自然と歴史の会のみなさんと一緒に観察会に参加させて頂いた後は、上高津ふるさと歴史の広場で昼食を取り、午後は散策と考古資料館の見学を行いました。

ちょうど、宍塚の里山や上高津周辺は紅葉のピークを迎え、美しい風景を楽しむことができました。また考古資料館では、当日まで企画展「上高津貝塚のころー縄文後期 円熟の技と美ー」が行われており、古く縄文時代からこの地が人々の生活の場として栄えていたことをあらためて学ぶ機会になりました。

植物のしくみから、歴史までひろく学ぶことができ、充実した観察会になりました。

多田多恵子先生、認定 NPO 法人宍塚の自然と歴史の会のみなさん、そして参加者のみなさん、パートナーのみなさん、ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の一部を御紹介致します。



大きく広がって班ごとに実と種を探します。



子どもたちも夢中で観察中です。



集めた実と種を分類します。



多田先生を囲んで種や実の不思議なしくみを学びます。



里山は紅葉がきれいでした。

宍塚大池にはたくさんのカモが飛来していました。

